

バレーボールのコンビネーション攻撃に対するブロックフォーメーションの有効性

Validity of blocking shifts against the offensive combination

1K07B221-8

指導教員 主査 矢島 忠明 先生

河野 愛

副査 倉石 平 先生

【緒言】

バレーボールを構築する 5 つの要素の中で、ブロックは試合の結果を左右する重要な要素である。近年のバレーボールにおいて、ブロックは従来のような 1 人で行う技術としての要素から、3 人のブロッカーが協力して行う戦術としての要素へと変革した。その大きな理由の一つが、バレーボールの得点制度がサイドアウト制からラリーポイント制となったことである。このルール改正によってアタックの戦術が大幅に高度化し、コンビネーション攻撃が台頭した。その影響で、3 人のブロッカーが協力して効率よくブロックを行う必要性が生じ、ブロックがシステム化され、現代のバレーボールにおいては、各場面でのどのブロックシステムを選択するかが重要であるといえる。そして、ブロックシステムを選択するために、アタック側チームが行うコンビネーション攻撃に対してどのブロックシステムで対応することが有効であるかを明確化する必要がある。そこで本研究では、4 つのコンビネーション攻撃に対する、4 パターンのブロックシステムの有効性を明らかにすることを目的として、実際の試合を分析した。

【方法】

2007 年に行われた関東大学男子 1 部バレーボールリーグ戦の 16 試合を、バレーボールコートエンドラインの後方観覧席に VTR カメラを設置して試合開始から終了まで撮影し、コンビネーション攻撃に対する 4 つのブロックシステムの効果を観察した。観察記録については、著者が分析対象の各項目の判定基準に従って専門的に訓練したうえで 1 プレイ毎に私案の記録用紙へ記録し、表計算ソフトにて分析を行った。

【結果および考察】

すべてのコンビネーション攻撃に対する効果率（全試技に占める成功と効果ありの割合）が最も高かったシステムは、バンチブロックシステム（以下 BN）であった。また、BN の効果率と BN を除くブロックシステムの平均効果率の違いには、成功の割合ではなく、効果ありの割合が影響したといえる（図 1）。スプレッドブロックシステム（以

下 SP）を用いたブロックは、レフト・ライトの両サイドからの攻撃に対する効果率が、他のブロックシステムと比較して最も高かった。その一方で、センター付近からの攻撃に対する効果率は最も低かった。このことには、アタック側チームのセッターがトスを上げた瞬間のブロッカーの配置が影響したと推察される。クイックに対するデディケートブロック：レフトマーク（以下 DL）の効果率とデディケートブロック：ライトマーク（以下 DR）の効果率を比較すると、DLの方が高かった。また、ライトサイドアタックに対する DL の効果率と、レフトサイドアタックに対する DR の効果率を比較すると、ライトサイドアタックに対する DL の効果率の方が高かった。これらのことには、両ブロックシステムにおけるマークの違いが影響したと推察される。さらに、レフトサイドアタックに対する DL の効果率と、ライトサイドアタックに対する DR の効果率を比較すると、ライトサイドアタックに対する DR の効果率の方が高かった。この要因は、レフトサイドアタックとライトサイドアタックにおけるブロックアウト（ブロックに接触したボールをコートの外に出してラリーを終了させ、アタック側チームの得点にする技術）の難易度の違いだと推察される。

【総括】

本研究の結果から、バレーボールにおける攻撃のパターンは多岐に亘るため、場面に応じたブロックシステムを選択することが重要であることが明らかになった。さらに、各コンビネーション攻撃に対する 4 パターンのブロックシステムの有効性が明らかになった。

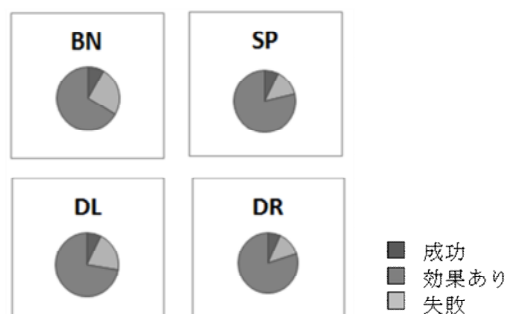


図 1 全試技における各ブロックシステムの効果